

報告

これまで検討されてきている、地域移行、敷居の低い相談先＋居場所、就労継続支援 B 型利用にかかる就労アセスメントについて引き続き検討を行いました。

1. 地域移行 (来年度引継ぎ希望)

入所施設や長期入院からの地域生活への移行について検討を行いました。

意思決定支援の重要性：

- ・地域移行支援の見える化を行ってきたが、意思決定支援（意思形成支援等）と、地域移行への実際の生活支援等とを区別して検討する必要がある。
- ・その上でまずは、本人の地域生活をしたいという気持ちが何よりも根本であり、それが支援者側等のいろいろな課題を乗り越えさせる事に繋がっていくと思われる。

意思決定支援への取組み：

- ・本人の意向が無いと成りたないという事を支援関係者等みんなで確認し、本人が意思を形成していくための日常的支援（ちゃんと本人に聞く、支援者が約束を守る、希望実現の積み重ね 等々）、安心して意思を表明してもらうための支援等を積み重ねていながら、本人の意思確認をするための支援者の役割分担を整理し、本人意思に基づき支援者が一つになっていくために、まずは意思決定支援の充実が重要である。

その他：

- ・その他、実際に地域移行した方の声を聴く機会、 実際の「この方」への地域移行支援を通じた検討等が必要と思われる。

2. 敷居の低い相談先 ＋ 居場所

まず一步社会とつながるための居場所として、またそこから次につながっていくための相談機能を持った場所として、あると良いと思われる場所について検討しました。

内容： ・自由：何かこれをしなければいけないではなく、居られる場所。

- ・食事提供：食事があると人が集まる（一緒にご飯を食べる事が他者との交流になる）。
- ・情報収集・共有：当事者同士が情報共有出来る事が重要。また、情報を得るための、パソコン、インターネット、印刷等があり、法律施行等が掲示されていると良い。

相談機能：相談しやすい居場所の支援者が窓口になり、そこから専門相談に繋がる機能があればよい。

開所日・時間：・常時開所（地域状況に合わせ土日開所検討）、作業所等終了後等に利用可能な開所時間。

- ・参加連絡は不要で（ご飯希望だけは連絡）、来たい時に来て、帰りたい時に帰る形。

利用者：さまざまな方が利用できる間口の広さが必要。

スタッフ：スタッフが常駐している必要がある（発展的に、当事者が運営にかかわると良い）。

周知：口コミが大きいのが、公的なものとして広報に載ったり分かりやすいことが必要。

立地：アクセスしやすい駅近い等が良い。

3. 「就労継続支援 B 型利用にかかる就労アセスメント」の課題から見える必要な取組み (来年度引継ぎ希望)

今後の議論の方向性：

- ・利用者の通所先を単純に振り分けるためのものではなく、また就労アセスメントを経ることが合わない方への特例を作るだけの議論でもなく、本来である豊かな生活を送るためのアセスメントを受けて、本人も支援者も今後の目標を作っていくための機会になるものでなければいけない。